

「東京水道経営プラン2016」 の策定にあたって

東京都水道局では、この度、平成28年度から東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催年である平成32年度までの5年間を計画期間とする「東京水道経営プラン2016」を策定しました。

都の水道事業は、明治31年に近代水道として通水を開始して以来、最も重要な基幹的ライフラインとして、都民生活と首都東京の都市活動を支えてきました。

水道の根源的使命は、安全でおいしい高品質な水を安定して供給することであり、そのため、高度経済成長期の需要拡大に対応した施設の整備、河川の水質悪化に伴う高度浄水処理の導入など、時代に合わせた施策を推進してきました。

また、財政面では、不断の経営努力を行うことで経費の削減や収入の確保などを図り、料金の増嵩を可能な限り抑制してきました。

しかしながら、今後は、平成30年代に一齐に更新時期を迎える浄水場をはじめとした基幹施設の再構築を着実に進めていく必要があり、いわば「ネクストステージ」に入ったといえます。

また、多摩地区では、都営水道に一元化した市町の老朽化した小規模施設などを再構築し、真の意味での広域水道としていくことも重要な課題です。

こうした状況に加えて、首都直下地震の切迫性が指摘されるなど、水道を脅かす様々な脅威に備えていくことも必要です。

さらに、信頼される東京水道であるためには、お客さまとの対話を積極的に行う必要があるとともに、エネルギー問題などに対しても、公営企業としての社会的責任を果たしていくことが求められています。

東京都水道局では、今後とも基幹的ライフラインとしての使命を全うしていくために、本経営プランに基づき、ハード・ソフト両面にわたり、将来を見据えた取組を推進するとともに、さらに強固な経営基盤を確立し、公共性と効率性を両立させながら、責任を持って安全でおいしい高品質な水を安定して供給していきます。

また、これまで培ってきた技術力・ノウハウを確実に引き継ぎ、この「世界一の水道システム」を次世代に繋げていくため、全力で取り組んでいきます。